

| | | | | | | | |
|----------|---|---|-------------|------|-----------------------|-----------------|------|
| 科目区分 | 専門分野Ⅱ | | | 科目番号 | 0809 | 曜日時間 | 通年 |
| 授業科目 | 成人看護学実習Ⅲ | | | | | | |
| 単位数 | 2 単位 | 時間 | 90 時間 | 開講時期 | 3年次 | 授業形態 | 臨地実習 |
| 担当教員 | 長谷川 ゆかり ・ 横手 理香 ・ 岡原 幸代 | | | | | | |
| 授業目的 | 生活行動に関わる機能を障害した対象を理解し、対象のセルフケアの援助を学ぶ。 | | | | | | |
| 中核 | 回復の予測とセルフケアの再獲得 | | | | | | |
| 授業目標 | (性・生殖機能障害、運動機能障害、脳・神経機能障害、感覚機能障害) 1. 生活機能が障害されている対象の特殊性が理解できる。 2. 生活の変化を余儀なくされた対象の思いに寄り添う。 3. 対象が、セルフケア再獲得するうえで、必要な援助を明確にする。 4. 対象が障害と向き合い、生活を主体的過ごせるように援助する。 5. 退院支援における他職種連携を知る。 6. 体験を振り返りセルフケア再獲得を支えるための看護の意義を明らかにする。 | | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 日 | 授業内容 | 授業方法 | 時間 | 担当 | 備考 | |
| | | 対象の生活と問題の予測・修正の学習をする ・事前オリエンテーション ・自己の科目目標を決定する ・効果的な自己学習を検討する ・病棟の特徴を理解する | 講義・グループワーク | (8) | 長谷川 ほ川 かゆ かり | 事前学習も含めて問題意識をもつ | |
| | 12日間 | 病棟の一日の流れと病棟の特徴を知る 生活行動に障害のある対象の全体像を理解する 対象の日常生活力をアセスメントする 生活行動に障害がある対象の機能障害を理解する 生活行動に障害のある対象特性を捉える 日常生活行動に障害のある対象の日常生活上の規制が分かる 自力で生活調整が困難な部分を理解する セルフケアを向上させる方法を理解する セルフケアに必要な生活指導が理解できる 対象を支える職種の種類や役割について理解する 地域で活用できる社会資源を理解する 継続看護と他職種との連携の必要性を理解する カンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し理解を深める | 臨地実習 | 90 | 各担当教員 | | |
| 終了後課題 | 受け持ち患者に必要なレポート | | | | | | |
| 評価計画方法 | 臨地実習の援助内容・態度を評価表で評価 | | | | | | |
| テキスト参考図書 | 既習したすべてのテキスト | | | | | | |
| 実務歴有 | 長谷川ゆかり | 看護師 | : 病院勤務 | 20年 | 看護教員: 学校勤務 | 1年 | |
| | 横手 理香 | 看護師 | : 病院勤務 | 26年 | 看護教員: 学校勤務 | 2年 | |
| | 岡原 幸代 | 看護師・保健師 | : 地域包括支援等勤務 | 6年 | 看護教員: 学校勤務 | 5年 | |
| 講義への反映 | 看護師としての経験を活かし、状況に即した実習を展開する | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |